

◎社団法人同盟通信社第四回通常社員總會議事錄

昭和拾貳年六月貳拾八日午後五時貳拾五分ヨリ東京市麴町區丸ノ内參
丁目拾四番地東京會館ニ於テ當社第四回通常社員總會ヲ開催ス

總社員

壹百九拾貳名

此ノ表決權

參千六百五拾七票

出席社員（委任狀共）

壹百〇九名

此ノ表決權

參千貳百五拾參票

社長岩永裕吉定款第貳拾九條ニ依リ議長席ニ着キ開會ヲ宣シ昭和拾貳
年六月拾四日附第四回通常社員總會招集通知書ニ記載セル事項ニ付報
告スル旨ヲ告グ

一、昭和拾壹年度事業及決算報告ノ件

議長ヨリ別紙昭和拾壹年度會計報告書ノ内容ヲ報告シ特ニ缺損金ヲ
生ゼル理由並ニ之ガ次年度繰越及補填方針ニツキ説明シタリ

社団法人 同盟通信社

二、昭和拾貳年度豫算報告ノ件

議長ヨリ昭和拾貳年度ノ一般會計並ニ同特別會計ノ計數及ビ豫算編
成ノ方針ヲ詳述シ更ニ新規事業計畫トシテ左記事項

(1) 海外支局ノ新設擴張

(2) 海外通信蒐集機關ノ擴張強化

(3) 海外通信數量ノ増加

(4) 外國通信社ニ對スル支拂手數料増加

(5) 對外弘報業務ノ擴張

(6) 國內通信網ノ擴張

(7) 編輯整理機關ノ新設

(8) 專用電話線ノ増設

(9) 特殊電送寫眞ノ施設

(10) 寫眞電送業務ノ擴張

(11) 經濟通信業務ノ擴張

(イ) 經濟通信用同報電話ノ創始
(ウ) ニュースの國內放送施設

ノ大要ヲ説明シタリ

三、定款變更ニ伴フ細則變更報告ノ件

議長ヨリ昭和拾壹年拾壹月九日定款變更實施ニ伴ヒ細則中一部變更ノ旨ヲ報告シタリ（別紙昭和拾壹年度事業及會計報告書記載ノ通り）
次ニ議長ハ左記事項ハ次年度ニ屬スルモノナルモ既ニ理事會ノ承認ヲ得タルヲ以テ特ニ報告スベシト、テ

四、無線時事通信社ノ無線放送事業買収ノ件

五、日本商業通信社創立ノ件

ニツキ之カ經過ヲ説明シ他ノ事項ハ昭和拾壹年度事業及會計報告書記載シアルヲ以テ之ヲ省略スベシト陳ベ續イテ議長ハ

社団法人 同盟通信社

此ノ機會ニ於テ特ニ諒解ヲ得タキコトハ同盟通信社ハ動モスレバ官營通信社タルガ如キ誤解ヲ蒙リツ、アルハ甚ダ遺憾ニシテ通信ノ自主獨立ハ我々ノ堅持スル不動ノ精神ニシテ斷ジテ他ノ干犯容喙ヲ許サズ然シ通信上必ズシモ缺點ナシトハ斷言シ能ハザルニヨリ之ニ關スル注意或ハ希望ハ我々ノ進シデ聽カント欲スル所ナルヲ以テ本月二十六日日本社ニ東京以東ノ社員新聞社ノ編輯實務者ト本社編輯幹部ノ會合ヲ催シ卒直ナル意見ノ交換ヲ爲シタル處極メテ有益ナル結果ヲ得タリ依テ今後此種ノ會合ヲ成ルベク定例的ニ地方別ニ開催シタキ考ヘナリ

ト陳ベ之ニ對シ多田爲太郎氏（德島毎日新聞社）ヨリ希望意見ノ開陳アリ終ツテ議長ハ第四回通常社員總會ノ議事ハ全部終了セル旨ヲ告ゲ午後六時十分閉會ヲ宣ス
右會議ノ要領ヲ記シ左ニ署名捺印ス

昭和拾貳六月貳拾八日

議長

岩永裕吉



出席社員

田中 齊



同

野中 楠



社団法人

同盟通信社

昭和十一年度事業及會計報告書

法人團

同盟通信社

一、昭和十一年度(自昭和十一年四月一日至昭和十二年三月卅一日)事業報告

當社ハ昭和十一年六月株式會社日本電報通信社ノ通信部ヲ合體シ名實共ニ我國唯一ノ強力通信社トシテ業務ヲ運行スルコトナリタルガ爾來機構ノ整備擴充並ニ通信網ノ擴大強化ヲ計リ其ノ使命達成ニ努力シ萬全ヲ期シ來リ幸ニシテ業務ハ大體豫期ノ實績ヲ舉グルコトヲ得タリ、就中昨夏伯林ニ於テ開催サレタル第十一回國際オリムピック大會ノ際ニ於ケル「ニュース」ノ速報及無線電送寫眞ノ活用昨年末支那西安事變ニ關スル報道、本年ノ政變及總選舉ニ際スル「ニュース」供給等ニ於テハ當社ノ機能ヲ極メテ有効ニ發揮スルヲ得タルモノト思料ス。

其他本期間中ノ主要事項左ノ如シ。

一、定款及細則中一部變更

- (イ) 昭和十一年六月二十二日 第二回通常社員總會ニ於テ左記定款中一部變更ノ件ヲ可決、同年七月一日主務大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ實施ス。

定款第二十一條第一項第四號中「六名以內」ヲ「七名以內」ニ改ム

- (ロ) 昭和十一年十一月九日 第三回臨時社員總會ニ於テ左ノ通り定款變更ノ件ヲ可決シ、同日主務

大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ實施ス。

第二十三條ノ二 理事會ニ會長一名及副會長二名ヲ置ク

會長ハ理事會ヲ招集シ其ノ議長ト爲リ理事會ト社長トノ連絡ニ當ル會長事故アルトキハ副會長其ノ指示ニ從ヒ任務ヲ代理ス

會長及副會長ハ第二十一條第一項第一號乃至第三號ニ依ル理事ノ互選ヲ以テ之ヲ定メ其ノ任期ハ三年トス但シ再選ヲ妨ケス

會長、副會長ニ於テ理事タル資格ヲ喪失シタルトキハ當然退任ス

會長、副會長ニ缺員ヲ生シタルトキハ之ヲ補缺ス補缺者ノ任期ハ前任者ノ殘餘期間トス

第二十四條、第二十六條及第三十條中「、專務理事」ヲ削リ第二十四條第八號及第二十五條第一項中「社長」ヲ「會長」ニ改ム

第二十五條第二項ヲ左ノ如ク改ム

社長又ハ理事總員ノ五分ノ一以上ニ當ル理事ヨリ會議ノ目的事項ヲ明示シテ請求シタルトキハ會長ハ五日以内ニ理事會ヲ招集スルコトヲ要ス

「第六章 社長、專務理事及常務理事」ヲ「第六章 社長及常務理事」ニ改ム

第二十八條中「社長及專務理事各一名、」ヲ「社長一名及」ニ改ム

第二十九條 社長ハ本社ノ事業ヲ總理シ本社ヲ代表ス尙總會ヲ招集シ其ノ議長ト爲ル

常務理事ハ社長ノ定ムル所ニ依リ業務ヲ分擔シ社長事故アルトキハ其ノ指示ニ從ヒ任務ヲ代理ス

第四十四條 第一回ノ會長、副會長ノ任期ハ第二十三條ノ二ノ規定ニ拘ラス昭和十四年度通常總會終結ノ時迄トス

(ハ)

昭和十一年十一月九日 定款變更實施ニ伴ヒ細則中左ノ通り改正シ同日ヨリ實施ス。

第二十四條第一項、第二十五條及第二十七條中「社長」ヲ「會長」ニ改メ第二十四條第一項中「假決議ヲ爲シ」ノ次ニ「社長」ヲ加フ

第二十六條第一項中「專務理事、」ヲ削リ「本條第三項ニ依リ議長ノ職ヲ行フヘキ者」ヲ「會長」ニ改メ同條第三項ヲ削除ス

一、役員ノ異動

昭和十一年六月十七日 理事故山本直太郎氏（日本放送協會）ノ後任トシテ清水順治氏理事ニ就任

- 同 六月二十二日 柏岡清勝（北海タイムス社）森一兵（名古屋新聞社）山本實一（中國新聞社）永江眞郷（福岡日日新聞社）ノ四氏定款第二十一條第一項第一號ニ依ル理事ニ就任
- 同 六月二十二日 上田碩三、光永眞三兩氏定款第二十一條第一項第四號ニ依ル理事ニ推薦サレ、上田氏ハ常務理事ニ就任
- 同 六月二十二日 理事岡本佐市氏（山陽新報社）ノ後任トシテ杉山榮氏、又一力次郎（河北新報社）林政武（北國新聞社）伊豆富人（九州日日新聞社）ノ三氏定款第二十一條第一項第二號ニ依ル理事ニ就任
- 同 六月二十七日 理事永江眞郷氏（福岡日日新聞社）ニ代リ阿部暢太郎氏理事ニ就任
- 同 七月六日 理事寺田四郎氏（報知新聞社）辭任シ後任トシテ三木七郎氏理事ニ就任
- 同 七月二十七日 河村徹氏（臺灣日日新報社）定款第二十一條第一項第一號ニ依ル理事ニ就任
- 同 九月二日 事務理事岩永裕吉氏社長ニ、又堀義貴氏定款第二十一條第一項第四

- 同 十一月九日 號ニ依ル理事ニ推薦サレ常務理事ニ就任
- 同 十一月九日 理事緒方竹虎氏（東京朝日新聞社）辭任シ後任トシテ美土路昌一氏理事ニ就任
- 同 十一月九日 理事田中都吉氏理事會長ニ、同野中楠吉、柏岡清勝兩氏理事會副會長ニ就任
- 同 十一月十八日 理事正力松太郎氏（讀賣新聞社）辭任シ後任トシテ柴田勝衛氏理事ニ就任
- 昭和十二年三月一日 理事岡崎鴻吉氏（東京日日新聞社）辭任シ後任トシテ杉山幹氏理事ニ就任

一、社員總會

本期間中開會スルコト左ノ如シ。

- 昭和十一年六月二十二日 第二回通常社員總會
- 同 十一月九日 第三回臨時社員總會

一、理事會

本期間中開會スルコト左ノ如シ

昭和十一年六月二十二日 第五回理事會

同 九月二日 第六回理事會

同 十一月九日 第七回理事會

一、本期末ニ於ケル社員數

前期末ニ於ケル社員數ハ一〇七社ナリシガ本期間中日本電報通信社通信部ノ合體成ルト共ニ從來未加入ノ新聞社モ新ニ加盟シ玆ニ全國ノ主要新聞社ハ殆ンド全部社員トナリ本期末ニ於ケル社員數一九四社トナレリ。

一、本期末ニ於ケル社員以外ノ通信購讀者數

	内地	支那	計
新聞通信	九七	九九	一九六
經濟通信	一、七二〇	一五五	一、八七五

一、政府ニ對シ通信上其他ノ特典便宜ノ優先供與要望

右ニ付第七回理事會ニ於ケル決議ニ基キ岩永社長ヨリ昭和十一年十一月十三日附ヲ以テ左記書面ヲ廣田首相、賴母本遞相、有田外相ニ提出シタル處政府ニ於テモ充分考慮スベキ旨ノ挨拶アリタリ。

朝野一致ノ協力ニ依リ既ニ同盟通信社ノ成立ヲ見タルニ付政府ニ於テハ豫テノ言明ニ基キ「將來政府ノ新聞通信事業ニ對シ與フルコトアルヘキ通信上其他ノ特典便宜ハ凡テ此ノ通信社ニ供與」シ以テ當社ノ發達強化ヲ期セラレムコトヲ切望ス。

一、本社事務所移轉ノ件

本社ハ昭和十一年六月二十八日從來ノ東京市京橋區銀座西八丁目九番地ヨリ東京市京橋區銀座西七丁目壹番地ニ移轉セリ。

一、海外支局ノ新設

海外通信網ノ擴充ヲ圖ル爲メ左記支局ヲ新設シタリ。

伯林支局（昭和十一年十二月十日事務開始）

巴里支局（同 十二月十一日同）

華盛頓支局（支局長倫敦出張ノ爲メ事務開始遲延ス）

一、國內支局ノ新設廢止

新設 和歌山支局（昭和十二年三月二十一日事務開始）

尾道支局（同 四月一日同）

廢止 徳島支局（經濟讀者激減ノ爲メ昭和十一年十二月末日限閉鎖）

二、市外専用電話線ノ新設

福岡支局長崎支局間ノ専用電話線ハ昭和十一年十一月九日ヨリ開通シタリ。

岡山支局高知支局間ノ専用電話線ハ昭和十二年三月二十二日ヨリ開通セリ。

三、特殊移動式電送寫真機ノ設備

昭和十一年註文中ノ特殊移動式電送寫真機完成シ昭和十二年三月ヨリ隨時各地ニ移動シテ必要ト認ムル寫真ノ電送ヲ開始シツ、アリ。

四、時事年鑑ノ買収

從來時事新報社ニテ發刊セシ「時事年鑑」發行權一切ヲ讓受ケ昭和十三年版ヨリ當社ニ於テ之ヲ繼承發行スルコト、ナレリ。

二、昭和十一年度（自昭和十一年四月一日至昭和十二年三月卅一日）會計報告

(イ) 貸借對照表

(昭和十二年三月卅一日現在)

資 産 之 部		負 債 之 部	
現金	九、三八七二四	入 社 金	二八六、九二五〇〇
銀行預金	四五二、五七六九〇	預リ保證金	二、〇四九三三
諸預ケ金	一一、五六五二四	諸假受金	一、二六九三七
所有有價證券	六三八、一〇〇〇〇	未拂電信料	八四、一三三九三
保證有價證券	九七、〇九六〇〇	未拂諸經費	六〇、二七一九六
保證金	一一、〇二八〇〇	未拂建築資金借入金及利息	七一、五五七六三
國內支社局手持現金	一五、八九九八〇	未經過諸通信料	二二五、七二一四四
海外支社局手持現金	一一、九八二八八	借 入 金	三、七三〇、〇〇〇〇〇
海外通信社立替金	一四、七七三〇四		
未收社員分擔金	一一一、四〇八〇〇		
未收諸通信料	六、七八五二九		
諸未收金	四六、六八九二二		
未拂込入社金	一三、三一〇〇〇		
假拂金	一四、六〇六一七		
諸立替金	一〇、四八七六九		
什器及備品	三二二、六一九〇〇		
家屋	九八、八二〇二四		
土地	一三七、八四二〇〇		
事業權	二、〇五八、六七〇〇〇		
缺損金	三六八、二八〇九五		
計	四、四五一、九二八六六	計	四、四五一、九二八六六

(口) 收支計算書

(自昭和十二年四月一日
至昭和十二年三月卅一日)

收入之部		支出之部	
新開通信收入	一、五三五、九〇八一七	總體費	四四〇、九四二八九
經濟通信收入	七四一、九一五五〇	本社費	五一〇、一二六二八
海外通信收入	三八六、五二八五三	國內支社局費	七三九、四五七六五
通信外諸收入	一〇一、一六二九四	海外支社局費	四〇八、四〇〇三〇
受入手數料	八四、〇八四二五	國內電信電話費	三九六、四五二二三
小計	二、八四九、五九九三九	海外電信電話費	二四四、一八八九三
特別會計益金繰入	一八、五四六一六	支拂手數料	一九九、二四一四三
當期缺損金	一九〇、六一〇六一	事業合同臨時費	九二、二六四九七
		諸償却費	二七、六八一四八
計	三、〇五八、七五六一六	計	三、〇五八、七五六一六

(ハ) 財産目錄

(昭和十二年三月卅一日現在)

科目	金額
現金	九、三八七二四
銀行預金	四五二、五七六九〇
諸預金	一一、五六五二四
所有有價證券	六三八、一〇〇〇〇
保證有價證券	九七、〇九六〇〇
保證金	一一、〇二八〇〇
國內支社局手持現金	一五、八九九八〇
海外支社局手持現金	一一、九八二八八
海外通信社立替金	一四、七七三〇四
未收社員分擔金	一一一、四〇八〇〇
未收諸通信料	六、七八五二九
未收未收金	四六、六八九二二
未拂込入社金	一三、三一〇〇〇
假拂金	一四、六〇六一七
諸立替金	一〇、四八七六九
什器及備品	三三二、六一九〇〇
家屋	九八、八二〇二四
土地	一三七、八四二〇〇
事業權	一一、〇五八、六七〇〇〇
計	四、〇八三、六四七七一

昭和十二年六月

法社
人團

同盟通信社

同	同	理	同	同	理	同	同	同	常	社
			副	副	事				務	
			會	會	會				理	
		事	長	長	長				事	長
林	一	伊	柏	野	田	堀	上	古	島	岩
		力	岡	中	中		田	野	山	永
政		次	富	楠	都	義		伊	敏	裕
			清			碩		之		
武	郎	人	勝	吉	吉	貴	三	助	行	吉

四

同同同同同同同同同同同同同同同同同同同

小	小	山	山	山	築	矢	高	高	田	片	河	和	荻	大
森	坂	本	根	田	田	上		石				田	野	島
七	武	實	文	金	欽	以	原	眞	中		村	恒	元	宇
				次	次	久		五		直			太	
郎	雄	一	雄	郎	郎	郎	操	郎	齊	道	徹	彦	郎	吉

右 審 査 候 處 相 違 無 之 候 也

監 常 務 監 事 事
同 同 同 同 同 同 同 同 同 理

福 古 杉 杉 森 森 柴 清 光 三 美 阿
田 賀 山 山 田 田 水 永 木 土 部
英 傳 一 勝 順 眞 七 路 暢
助 吉 榮 幹 久 兵 衛 治 三 郎 一 郎
昌 太

